

羽田発着枠政策コンテスト  
スカイマーク 羽田＝宮古(下地島)線への発着枠の配分が決定  
～2023年10月29日以降も運航を継続します～

国土交通省航空局の実施する「羽田発着枠政策コンテスト」(※1)に応募していたスカイマークの羽田＝宮古(下地島)線について、この度、正式に2023年10月29日から2025年3月29日までの羽田発着枠の配分が決定しましたので、お知らせします。

(※1) 地方路線の活性化策について航空会社と就航先の自治体などが共同で国土交通省航空局に提出し、有識者の評価などを踏まえて、羽田空港の発着枠(発着する権利)が割り当てられる仕組み。前回は2020年5月に開催。

羽田空港と下地島空港を結ぶ路線開設に必要な羽田発着枠の配分を受けるべく、沖縄県、宮古島市、下地島エアポートマネジメント株式会社、スカイマーク株式会社の4者共同にて羽田発着枠政策コンテストに応募の結果、2020年5月の評価にて僅差であった5位の羽田＝三沢線と6位の羽田＝宮古(下地島)線は暫定的に両路線に羽田発着枠を配分、2022年3月27日から1年間の評価対象期間(トライアル運航期間)における実績を再度評価の上、2023年10月29日以降の羽田発着枠の最終配分先を決定することとされておりました。

下地島空港活性化協議会(会長：座喜味一幸)(※2)とスカイマーク株式会社は羽田発着枠の正式配分を目指し、官民一丸となり、宮古島の魅力や下地島空港の優位性の発信、宮古諸島の受入環境整備や当該路線の利用促進に取り組んできたところです。

(※2) 本協議会は、宮古諸島の受入環境整備や下地島空港の航空路線プロモーションなど、下地島空港活性化に資する各種事業の立案並びに実施することを目的として、2020年8月に沖縄県、宮古島市、(一社)宮古島観光協会、宮古島商工会議所、下地島エアポートマネジメント株式会社にて立ち上げた組織。

羽田発着枠の正式配分を受けて、宮古島市長(協議会会長)の座喜味一幸は次の通り述べています。  
「スカイマーク羽田＝宮古(下地島)線は今や旅客・貨物両面において宮古諸島にとって欠かせない路線となっており、今回の結果を受けて運航を継続できることは大変有意義。今まで当該路線を盛り上げるべく連携・協力いただいた全ての皆様に感謝申し上げますと共に、よりこの路線を通じて宮古諸島が発展していけるよう、引き続き官民一体で連携して取り組んでいきたい。」

本協議会は、今後も官民一体となって下地島空港活性化に向けた施策を立案・推進し、宮古諸島のさらなる活性化を目指します。